

令和7年度 学校評価表

島根県立松江商業高等学校

※評価(肯定的意見) A:80%以上 B:65%以上 C:50%以上 D:50%未満 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

| 教育目標 | 重点目標 | 担当分掌 | 目標達成のための方策 | 評価指標 | 資料 | R6 | R7 | | | 成果と課題(自己評価) | 改善策 | 評価 | 学校関係者評価 | |
|---|------|------|--|---|--------------------------|------------|------|-----|--|--|--|--|---|--|
| | | | | | | 評価 | 平均 | % | 評価 | | | | コメント | |
| 『自立型人間の育成』 ③②① 地こ分 やろの 人をコ 生愛し 、未 が来 自上 を己 向切 効き 力で 開く 主勇 自己 変と 肯容 実定 で感 き力 を高 生持 徒つ 生徒 | 保健 | | ・生徒の健康状態を的確に把握し、それを基に生徒自らが健康管理の意識を高めることができるよう指導する。 | ・先生や保護者に自分の悩みや困りごとを伝えることができる生徒 | 生徒アンケート 15 | B | 3.1 | 79% | B | ・生徒の心身の健康管理については、日常的な把握と指導をクラス担任や部活動顧問と連携して行った。 ・SC活用を定期的に行った。 | SC、SSW、ケースに応じて各相談機関との連携をより推進し、周知を図る。 | B | 高い評価を得ている教育相談体制を維持しつつ、残り2割の生徒への支援をより一層充実させる。 | |
| | | | ・関係機関等との情報交換を密にして連携した支援を行う。 | ・学校の教育相談体制を評価している保護者 | 保護者アンケート 12 | A | 2.9 | 79% | B | | | | スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)の活動状況を積極的に周知し、家庭との連携を強化する。 | |
| | 図書人権 | | | ・人権・同和教育についてのLHRを実施し生徒の自尊感情や人権感覚を育てる。 | ・人権意識を持って行動していると答えた生徒 | 生徒アンケート 3 | A | 3.4 | 91% | A | 人権意識を持って行動していると答えた生徒 昨年3.3(90%)、当事者意識を持って行動していると答えた生徒 昨年3.1(83%)、生徒の人権意識が高まっていると感じている保護者 昨年3.1(91%)、生徒の当事者意識が高まっていると考える保護者 昨年2.9(76%) 昨年度と比較して各項目の評価値が僅かだが上昇しており、生徒の人権意識の向上とともに保護者の理解もうかがわれる結果であった。 | 今後も継続的に人権意識や人権感覚を高める働きかけを実施していくため、HRでの使用教材の改善や充実を図り、より一層生徒の心に訴えかけて気づきをもたらす授業を展開できるようにしていきたい。 | B | 生徒の人権意識および当事者意識が着実に向上していることを評価するとともに、これらの意識が日常の中でより確かなものとして定着するよう、引き続き授業内容の工夫や充実を期待する。 |
| | | | | ・生徒による授業評価を行い、教員・生徒双方から授業を改善する環境をつくる。 | ・生徒の人権意識が高まっていると感じている保護者 | 保護者アンケート 3 | A | 3.2 | 94% | A | | | | 生徒には、特定の考えに偏ることのない、公正でバランスの取れた人権意識や人権感覚を備えることが強く求められる。物事を多様な視点から多角的に状況と判断できる能力を養うことで、真に他者を尊重できる資質を育む教育の推進を期待したい。 |
| | | | | ・安心して過ごせる生活環境を整える。 | ・学校の生活指導を評価している保護者 | 保護者アンケート 8 | A | 3.1 | 85% | A | | | | アンケート結果から生徒の充実感や満足度の高さがうかがえる一方、校内外におけるマナーの遵守や人間力を高めるための心づくり教育をさらに推進することを期待する。 |
| | | | | ・全校生徒の出席率 | 統計資料 | A | 98% | A | ・今年一度、集会等で校則を含めたルールやマナーについて一斉指導を実施し、学年部と連携した一貫性のある指導を実践したい。 ・学校生活のあらゆる場面において、人間性、人間力を高めるための心でづくり教育を工夫したい。 ・生徒の欠席や遅刻等の原因を早期に把握することで生徒支援、生徒指導につなげ、場合によっては学年部や保健部とも連携し、生徒の変容につなげていきたい。。 | | | | | |
| | 進路 | | | ・学校から提供される進路情報を、自分の進路実現のためにしっかり活用していると答えた生徒 | 生徒アンケート 13 | B | 3.2 | 79% | B | 3年生の面接・小論文指導は、全教職員が協力して行うことができた。また、就職・進学対策や学力育成のために、年間を通して進路補習を実施した。学年部と協力して、1年生は自己理解・キャリア研究のための活動を行い、2年生は分野研究や志望を具体化する活動を行っている。大学進学や看護職等を志望する生徒に対してそれぞれ説明会・座談会を開き、公務員志望者対象に年間を通して対策講座を実施した。3月には44社に参加していただき、1,2年企業説明会を開催予定。「進路の手引」は、保護者に進路説明会や面談で配布し、生徒も特別活動や説明会等で活用した。また、「進路だより」を生徒・保護者に配信した。 進学者は、多様な入試制度を利用し、検定や資格、課題研究の取り組みも生かして合格をいただいた。進学において総合型選抜の受験者が増えていること、就職では求人依頼企業が増えていることなどから、ミスマッチをなくすための情報収集、早期からの進路指導と受験対策が課題である。 | 進路行事等、活動の実施内容については、進路希望状況等も参考に、学年部と協力して検討し充実を図る。ホームルームを利用して継続的な指導を計画する。実力テスト(教科、小論文、SPI等)を進路・学習指導にさらに生かせるように、前後の指導や情報活用等について研究し、学年部と共有する。 「進路の手引」などの進路資料は、保護者にはPTA行事や面談で確実に配付し、情報の活用につながるよう図っていく。生徒が情報を進路実現に役立てられるように、1年次から活用機会を計画的に設ける。 教員は情報交換会、学校説明会等で企業・上級学校の理解を深めながら、校内での情報共有を図る。就職希望者が企業見学、ジョブフェア等の機会をさらに活用できるように指導の機会を計画する。進学希望者には学校見学会等への参加を促し、医療・福祉系については早い時期からの体験学習への参加を促す。特に3年の進路対策を早めて多様な進路の実現に対応する。 | B | 近年の進路傾向として、四年制大学への進学希望者が増加する一方、就職希望者は減少傾向にある。こうした進学志向の推移に加え、雇用および入試情勢は厳しさを増している。就職に関しては、近年の賃金水準の上昇に伴い、企業側がより資質の高い人材を求める「厳選採用」の傾向を強めている。人手不足感はあるものの、採用基準の厳格化により一次選考で内定に至らないケースも見受けられる。企業側からの具体的なフィードバックが得られにくい現状を鑑みれば、学校側にはより戦略的かつ多角的な対策の構築が求められる。生徒一人ひとりの進路希望を尊重しながら、企業が求める能力とのマッチング精度を高めることは極めて重要である。今後も産業界との情報交換を密にし、変化する採用動向を的確に捉えた、これまで以上にきめ細かな進路指導の展開を期待する。あわせて、進学を選択した生徒に対しても、将来的に地域へ戻り貢献できる資質を養う「ふるさと教育」を推進し、中長期的な視点での地域人材育成とマッチングに注力されたい。 | |
| | | | | ・学校から提供される進路情報を、積極的に活用している保護者 | 保護者アンケート 9 | B | 2.7 | 65% | B | | | | | |
| | | | | ・生徒の進路実現のために、積極的に助言している保護者 | 保護者アンケート 10 | A | 3.0 | 78% | B | | | | | |
| | | | | ・学校の進路指導を評価している保護者 | 保護者アンケート 11 | A | 3.1 | 86% | A | | | | | |
| | | | | ・在学中の就職内定率 | 統計資料 | A | 100% | A | | | | | | |
| | | | | ・在学中の進学合格率 | 統計資料 | A | 100% | A | | | | | | |
| ・「進路の手引」を年度初めに配布し、LHRや進路説明会等で活用する。 | | | | ・「進路の手引」を年度初めに配布し、LHRや進路説明会等で活用する。 | 保護者アンケート 10 | D | 2.4 | 45% | D | | | | | |
| 図書 | | | ・生徒への利用指導及び図書館からの情報発信を充実する。 | ・図書館を活用(学習・探究・読書等)していると答えた生徒 | 生徒アンケート 10 | D | 2.4 | 45% | D | 図書館を活用(学習・探究・読書等)していると答えた生徒 昨年2.0(22%)、「毎月の図書館便りや掲示物」を、自分の視野を広げるために活用していると答えた生徒 昨年2.3(30%) 図書館に来館する生徒が一部に限られている状況があるため数値が上がりにくい項目だが、昨年度に比較して大幅に上昇している。蔵書検索システムなど松商図書館サイトによって、図書館に来館しなくても端末からの活用を充実させる方向での新たな図書館の活用方法を模索した結果だと考える。 | 今後もし引き続き、読書センターとしてだけでなく、学習・情報センターとしての機能を一層高めていきたい。紙媒体の情報提供とともに、図書館サイトで収集・公開している、課題研究・未来創造探究・進路指導に活用できるリンク集の一層の充実を図るとともに利用者への周知を繰り返して実施していきたい。周知の機会として、図書館の利用指導が1年の新入生オリエンテーション時だけでなく、2、3年のHRでの活用も検討していきたい。 | C | 生徒ポータルを通じた蔵書検索システム(松商図書館サイト)の運用や、進路・AI関連の情報発信など、従来の「読書センター」の枠を超えた多角的な取り組みが、評価値の上昇という具体的な成果に結びついている。 | |
| | | | ・オリエンテーション、イベント等を通じて読書習慣の定着を図る。 | ・「毎月の図書館便りや掲示物」を、自分の視野を広げるために活用していると答えた生徒 | 生徒アンケート 17 | D | 2.4 | 43% | D | | | | 情報活用能力の育成において図書館の役割は極めて重要であり、今後は「学習・情報センター」としての機能をさらに活性化させることが期待される。 | |

